



グループ企業の力を利用して開発力に磨きをかける Tolapai & Atom製品を 早期に市場投入

アドバネット(株) 執行役員 CTO 難波秀文氏/同社 執行役員 設計開発本部 新商品開発マネージャ 庄司正巳氏



アドバネットは、VME、CompactPCIなどの標準バス・ボード製品、およびOEM製品の設計・開発から製造・品質保証までを一貫して提供する日本の設計・製造会社である。2007年11月にはEurotech S.p.A(本社：イタリア)のグループ会社となり、新製品開発を加速させている。ここでは、同社の執行役員である難波秀文、庄司正巳の両氏にお話を伺った。聞き手は、CQ出版 クロスメディア部企画室。

—先ごろ開発したTolapai(EP80579)を搭載したCPUボードと、Atomを搭載したCPUモジュール/開発キットについて、教えてください。

庄司氏： Intel社のSoC製品であるTolapaiを搭載したCPUボード製品は2機種あります。「A3pci8024」は、CompactPCIの3UサイズのCPUボードです。CompactPCIのシステム・スロットでも、ペリフェラル・スロットでも使用できるように設計されています。3Uでシングル・スロットを実現しており、小型化が大きな特徴です。「Adbc8025」は、COM Express Basic フォームファクタのボードです。Adbc8025は現在開発中で、2009年第1四半期の出荷を予定しています。

難波氏： Atomプロセッサを搭載した「Catalyst Module」は、CPUモジュールと評価用のキャリア・ボードをセットで提供する製品です。モジュールのサイズはCOM Expressよりひと回り小さくなっています。Atomの動作周波数は1.1GHz、1.6GHzのいずれかを選択できます。こちらの製品の特徴は、低消費電力で発熱が小さいことです。

—A3pci8024/Adbc8025の開発は、いつごろスタートしましたか？

庄司氏： 2008年3月中旬に開発をスタートして、7月には製品発表を行いました。いち早く製品をリリースすることで、他社に先行して新たなビジネス・チャンスをつかみたいという狙いがありました。

難波氏： 早期に製品をリリースできた一つの理由として、

アドバネットが2007年から、イタリアに本社のあるEurotech Groupに参加していることが挙げられます。Eurotech GroupのEuroTech Inc.(米国)はIntel社と非常に親密な関係にあり、その影響で当社にも有益な情報がIntel社より提供されるようになりました。これにより、開発期間の大幅な短縮が実現できたといえます。

—Eurotech Groupに参加したことで、何が変わりましたか？

難波氏： 日本でのオペレーションは何も変わっていません。先ほども述べましたが、Eurotech GroupとIntel社の間には親密な信頼関係があり、そのおかげで評価ボードやサンプル・チップを早期に入手できるようになりました。今後もこの関係を当社の製品開発に生かしたいと思います。

また、これまでどうしても市場が日本に限られていましたが、Eurotech Groupに参加して以来、製品に対する欧米からの評価も徐々に入ってくるようになりました。これは、ある意味で良い刺激になっています。

庄司氏： 例えば、欧州の産業用機器では6Uよりも3Uの方が好まれているとか、日本ではあまり要求されないような拡張温度レンジの製品へのニーズが高いということが挙げられます。

—アドバネットは海外企業との協力関係を深めています。その一方で自身の開発力やサポート力にも定評がありますね。

難波氏： アドバネットは製品の設計から製造まで、一貫して日本国内で行っています。組み込みボードの世界ではただ良い製品を作って売ればよいというのではなく、お客様へのサポートが重要です。組み込みボードは、最終的にお客様側でアプリケーション開発を行って完成するもので、その部分をお手伝いすることがベンダには求められます。そのために、お客様にご満足いただけるように誠心誠意サポートを行うことが重要であると考えています。Eurotech Groupの製品も同様のサポートで拡販する予定です。